

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：32689
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2013～2015
課題番号：25370418
研究課題名(和文) Anthology: Japanese Peruvian Writers

研究課題名(英文) Antology: Japanese Peruvian Writers

研究代表者

間藤 茂子 (Mato, Shigeko)

早稲田大学・国際教養学術院・准教授

研究者番号：90579468

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な成果は、日系ペルー人作家著作の文学作品分析し、各種学会、研究会、及び学術誌で発表した。日系ペルー人作家、Jose Watanabe、Augusto Higa Oshiro、Fernando Iwasaki、Doris Moromisatoの作品に日系アイデンティティーがどのように描かれているのかを分析した。具体的には、出稼ぎ移民、移動を通し、19世紀後半から現在に至るまで「日系ペルー人」というアイデンティティーがどのように生まれ、不均一で固定できないものへと変容しているかを研究した。

研究成果の概要(英文)：In this research, I mainly analyzed how Japanese Peruvian (Nikkei) identity was born and has been transformed into indefinable, diverse, and heterogeneous identities, in literary works authored by Jose Watanabe, Augusto Higa Oshiro, Fernando Iwasaki, and Doris Moromisato. More specifically, I examined the birth and transformations of the identity of "Nikkei Peruvians," through the exploration of Japanese Peruvians' immigration experience at the end of the 19th century and, then, the 20th and 21st-century reverse immigration and migration movements. I presented the studies that explored this theme at several conferences and symposia and published articles examining the theme in academic journals.

研究分野：現代日系ペルー人作家による文学作品分析

キーワード：日系ペルー人作家 日系ペルー人アイデンティティー 南米日系人作家 移民、移動 ディアスポラ

1. 研究開始当初の背景

本研究以前に探究した日系ペルー人の場所、アイデンティティーのテーマを、日系ペルー人作家著作の文学作品を通しさらに掘り下げて研究する必要があると考えた。日本では日系ペルー人の移民史や現在の出稼ぎによる移動の社会学視点からの研究は進んでいるが、日系作家著作の文学作品を通して日系ペルー人アイデンティティー、国家、コミュニティを分析したものはまだ少ない。本研究は、日系ペルー人作家を文学学術界に広げるだけではなく、文学研究の領域を移民学、社会学等の領域に結びつけるインターディシプリナリーな研究にしたいと考えた。

2. 研究の目的

研究の目的は、日系ペルー人作家、Jose Watanabe、Augusto Higa Oshiro、Fernando Iwasaki、Doris Moromisato、Carlos Yushimito del Valle の文学作品を選集として紹介し、各文学作品の分析を加え文学作品と評論選集として一冊の本にまとめることであった。具体的には、上記の作家が「日系ペルー人」という標識をどのように受け入れているのか、拒否しているのか、また、それぞれの「日系ペルー人」に対する姿勢が各作家の作品にどのように描写されているかを探究するものであった。さらに、19世紀後半から始まった日本人のペルーへの移民、日本人移民に対するペルーの政治的、社会的差別、及び、20世紀後半から現在に至までの日系ペルー人の日本への出稼ぎ経験が日系ペルー人のアイデンティティー、コミュニティをどのように建設し、変化させていったのかを文学作品の分析を通して研究することであった。

3. 研究の方法

文学の領域を越えたインターディシプリナリー（異なった学問分野にまたがる）の方法で研究された「家」「アイデンティティー」「移民、移動」「ディアスポラ」に関する理論を調査し、得た知識を文学作品の分析に適用した。特に、ポストコロニアルスタディーズ、カルチュラルスタディーズの分野で討論されている「家」「アイデンティティー」「移民、移動」「ディアスポラ」の概論、学説を詳細に調査し、日系ペルー人作家の作品にこれらの理論を適用した。調査は、東京、沖縄、アメリカ、シカゴ大学図書館、ウイスコンシン大学図書館、ペルー、日秘文化会館図書室、移民資料館、ポンティフィシアカトリック大学等で行った。また、ペルーでは、2人の作家とインタビューを行うことができた。さらに、研究内容を他の研究者に批評してもらうため国内、国外での学会、研究会に参加し、意見交換をした。

4. 研究成果

(1) 必要な文献資料を日本、アメリカ、ペル

ーで収集した。特に、ペルーで出版された文学作品は絶版しているものが多く、現地で作家から直接取得した。理論書の取得はシカゴ大学、ウイスコンシン大学図書館で行った。これらの図書館には日本では直ぐに手に入らない学術誌、幅広い理論書が豊富に備えてあるからである。

(2) 「日系ペルー人」という標識は、全ての日系ペルー人作家が受け入れているものではなく、「日系」というレッテルを拒否する作家もいることが分かった。Augusto Higa Oshiro と Doris Moromisato は「日系」であること、または沖縄出身の祖先がいることを認識し、文学作品にも日系アイデンティティー、コミュニティ、文化が描写されている。しかし、彼らの日系アイデンティティー、日系人の居場所に対する姿勢は複雑である。ポストコロニアルスタディーズを代表する学者 Homi Bhabha のハイブリッドアイデンティティー論、フロイトの「不気味なもの」を基に Bhabha が論じる「不気味な家庭」(unhomely)を適用し、Higa と Moromisato の作品に登場する人物の心中に存在する日系人とペルー人の葛藤を分析した論文を発表した。一方、Jose Watanabe、Fernando Iwasaki、Carlos Yushimito del Valle は、「日系作家」のレッテルを張られることを拒絶する。Watanabe の詩には、生命、アイデンティティー、家の固定概念を離れ、新しい概念を発見し、さらにそれを曲げ続けるという思想が見られ、「日系」を拒否するのは固定概念を壊し続ける姿勢の一例であると論じた。Iwasaki の場合は「日系作家」のレッテルを拒否する一方、このレッテルを利用しているように見え、この矛盾を「日系の影」の存在と示した。ある短編小説の批評では、「日系の影」が、幽霊の様に出没し、それを拒絶し同時に誘惑されていく主人公を作者自身に重ね自己風刺している作家の姿勢を分析した。Yushimito del Valle の作品分析に関しては、分析を研究期間内に論文にまとめることができなかった。

しかし、Yushimito del Valle は「日系作家」のレッテルを拒否し、大多数の作品は日系文化に全く関係がないものであるが、日系人の家族を描いた短編小説が一つあることを発見した。第二次世界大戦中にペルーからアメリカへ強制送還された日系ペルー人の父を持つ息子の心理を追求した短編小説なのだが、これをペルーで取得することはできた。強制送還を直接批判するのではなく、残された者の心理を追求するのは何故なのかを探究し、論文を書き始める段階には到着した。

(3) 2014年4月と2015年7月に早稲田大学で国際シンポジウムを開催した。2014年のシンポジウムは、カリフォルニア大学メルセド校、ウェルズリー大学の研究者と共同主催で「スペイン語、ポルトガル語圏におけるオリ

エンタリズムとアジアの存在についての第6回国際シンポジウム：文明同盟に向けての東洋-西洋異文化間の対話」を開催した。インターディシプリナリーアプローチで様々な分野におけるスペイン語圏、ポルトガル語圏とアジアの遭遇、接触、接触から生じる摩擦に関する研究発表と意見交換が行われた。9カ国から36名の研究者が集まり2日に渡り討論が行われた。2015年7月のシンポジウムは、ニューヨーク大学アジア/パシフィック/アメリカ協会の研究者と共同主催で「ディアスポラアート、ディアスポラ文学における技法と国際性：創造的作品と実践のインターディシプリナリーな探査」と称し、アジア、特に日本のディアスポラ現象（日本から南北米への移民、移動、南北米から日本への移民、移動で起こる）がどのように文学、アートに表現されているかを討論した。招聘講演者は、アルゼンチン在住の日系アメリカ人作家、日本で活躍し視覚芸術と文学を混ぜる技術を発揮する作家、ネオリベリズムがどのようにグローバルな移動を起こし、どのように移動空間または移動で作られる空間を表した芸術を生み出しているのかを研究するアメリカの研究者であり、講演と意見交換が行われた。

(4) 本研究期間中に学会、シンポジウム、研究会を通して、新しい見解が広がった。本研究では、上記の5名の日系ペルー人作家著作の文学作品を分析するのが主目的であったが、日系ではないペルー人作家 Luis Fernando Arriola Ayala の日本でのペルー人の出稼ぎ体験を描く小説『Gambate: 頑張って』(2011)を発見し、分析することができた。さらに、ペルーを越え、他のスペイン語圏の日系作家の作品があることを知った。ポリビアの Pedro Shimose、アルゼンチンの Anna Kazumi Stahl と Maximiliano Matayoshi の作品を発見した。また、ドミニカ共和国、キューバ、メキシコに日系コミュニティが存在し、各国で日系人の写真集や証言などが存在していることを知った。また、日系人の文学作品のみではなく、文化、視覚芸術作品の存在も認識した。ペルーでは、画家 Tilsa Tsuchiya、漫画家 Ricardo Fujita Kokubun の作品を検索することができた。この他に、日本で暮らす日系ペルー人のアイデンティティーと居場所のテーマを扱った日本人作家による文学作品を発見した。星野智幸著作の『目覚めよと人魚は歌う』の主人公がどのようにペルーと日本に挟まれながら自分の居場所を見つけていくのかを分析した論文も発表した。簡潔に述べれば、日系ペルー人のアイデンティティーと家とは何かを研究する過程で、ペルーと文学の領域を越え、南北米全体と日本における日系社会の実態と、文学と文学以外の芸術、文化作品に描写されている日系社会を研究する必要があると認識した。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計7件)

間藤 茂子、Contemplating Jose Watanabe's Eye through Roland Barthes's Photographic Eye, *Transmodernity: Journal of Peripheral Cultural Production of the Luso-Hispanic World*, 査読有、Vol.6、No.1、2016、71-87
URL:<http://escholarship.org/uc/item/07d316gh>

間藤 茂子、Between the Seduction and Aversion of Japanese Heritage, *Chasqui: Revista de Literatura Latinoamericana*, 査読有、Vol.44、No.2、2015、226-237

間藤 茂子、Okinawan Peruvian Poet's Gender Performativity: On *Diario de la mujer es ponja* by Doris Moromisato, *The Latin Americanist*, 査読有、Vol.58、No.2、2014、137-155
DOI: 10.1111/tla.12030

間藤 茂子、Imagining Unnegotiable Home at the Margins in *La iluminacion de Katzuo Nakamatsu* by Augusto Higa Oshiro, *Hispanofila*, 査読有、Vol.169、2013、175-192

間藤 茂子、Identity Crisis and Negotiation of a Japanese Peruvian in 『目覚めよと人魚は歌う』 by 星野智幸, *Waseda Global Forum*, 査読有、Vol.10、2013、317-336
URL: <http://hdl.handle.net/2065/41464>

〔学会発表〕(計6件)

間藤 茂子、Hogar de pertenencia y desplazamiento: una respuesta de Jose Watanabe a la categoria de "poeta nikkei", IX Congreso Internacional Asociacion Asiatica de Hispanistas, 2016年1月22日(～1月24日)、チュラーロンコーン大学、バンコク、タイ

間藤 茂子、Simbiosis de arraigo y desarraigo en la poesia de Jose Watanabe, XV Congreso Internacional de Literatura Hispanica, 2015年3月6日(3月4日～6日)、アンティグア、グアテマラ

間藤 茂子、Entre la seducción y la aversion a la herencia japonesa: una lectura de "La sombra del guerrero" de Fernando Iwasaki a través del ojo de una parodia, 2014年3月13日(3月12日～14日)、カルタヘナ、コロンビア

間藤 茂子、Okinawan Peruvian's

Trans-Pacific Traveling and Unknowable Destinies in Doris Moromisato's *Chambala era un camino* (1999)、LASA (Latin American Studies Association) XXXI International Congress、2013年5月31日(5月30日～6月1日)、ワシントンD.C.

間藤 茂子、Okinawan Peruvians' Search for Origin and Home in Doris Moromisato's *Chambala era un camino* (1999)、North Modern Language Association 44th Annual Convention、2013年3月22日(3月21日～24日)、ボストン

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://researchers.waseda.jp/profile/ja.8cf4bdfc55e05ad1cec044182f40ef29.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

間藤 茂子 (MATO, Shigeko)
早稲田大学・国際教養学院・准教授
研究者番号：90579468

(2) 研究分担者

なし ()
研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()
研究者番号：